



福岡県立伝習館高等学校

自然科学部

福岡県柳川市本町142

「ニホンウナギの絶滅を回避するための2つのサンクチュアリづくり
～特に持続可能な水環境維持に必要な酸素と微生物について～」



Action

伝習館高校自然科学部では、2014年にニホンウナギが国際自然保護連合によって絶滅危惧種ⅠB類に指定された時から、うなぎのせいろ蒸しで有名な柳川市と自然豊かな飯江川が流れるみやま市でニホンウナギのサンクチュアリをつくるという取り組みを始めました。現在までのシラスウナギの特別採捕数は10,000尾を超え、水槽の水換えを行わずに7cm以上まで飼育した稚魚をこれまでに8,700尾以上を放流しています。また、土砂災害を防止するとともに一定の川の流量を確保するために植林活動にも参加しています。さらに、ウナギを飼育している過程で感染症に罹って死亡させることを防ぐために実験を行い、水槽にクスノキ落葉を入れることで水換えを行わなくても死亡率が激減することを発見しました。そして、落葉を入れることで死亡率が減少するメカニズムを解明し、微生物と酸素のはたらきが地球上で深刻化している環境問題の解決に繋がると考え、新しくSDGs18番目のゴール「多様な生物のニッチに微生物も入れよう」を提唱しました。